

# 平成27年度事業計画書

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

平成27年度は、公益財団法人として引き続き法令、定款等の順守（コンプライアンス）、透明性の確保（情報開示）を基本とした自己責任に基づく健全で安定的な経営基盤の確立を目指す。

事業活動については、引き続き「遊んだり、泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を掲げ、琵琶湖・淀川流域の水質保全分野を中心とした諸課題の解決に向けた自主研究や研究助成、啓発事業などの事業を実施する。

## 1. 水質保全調査研究事業（自主）（予算額 10,000 千円）

### ◆ 生活環境保全対策・健康リスク問題に関わる調査研究

流域全体で取り組むべき水質課題や効率的な対策等を対象に、公共用水域への流入汚濁負荷の削減対策、発生源の把握等について、課題解決に向けた調査研究を進める。また、琵琶湖・淀川流域全体の長期的な変化を図化した分析ツールによる解析を推進するとともに、今後の水系水質管理のあり方を探索するべく流域の関係機関や担当部署との連携調査についても取り組むことを目指す。

## 2. 水質保全啓発事業（予算額 2,760 千円）

琵琶湖・淀川流域の水環境保全を流住民や行政等々と共に一体となって推進するための広報・啓発事業として、「流域の水環境保全のための情報収集・発信」、「流域住民の水環境保全活動への普及啓発・連携」を行う。主な実施項目は下記のとおりである。

### ◆ 流域の水環境保全のための情報収集・発信

流域住民、市民団体、行政、研究・教育機関、企業など、幅広いステークホルダーによる流域水環境保全のための取組みに資することを目的に、情報の共有化や利活用を推進する学術的情報ツールとして、あるいは、琵琶湖・淀川を身近に感じ、地域の水環境を流域全体として理解してもらうための水環境情報をわかりやすく紹介した冊子等、様々な水環境保全のための情報発信活動に取り組む。

### 「BYQ 水環境レポート」

流域全体の水環境データ・情報を収集し、研究機関や行政機関、一般住民等に供するための情報誌を発刊するとともに、Web 上で公開する。

### 「琵琶湖・淀川－里の川をめぐる情報誌」

琵琶湖・淀川流域内の大小河川を対象に、川の歴史や見所、水質などを紹介する冊子を発行し、流域住民の水環境への関心を高めていく。平成 27 年度は下記の 2 河川と総集版の編集・発行を予定する。

- ・「近江八幡水郷・西の湖（滋賀県）」、「安威川・神崎川（大阪府）」
- ・リーフレット総集版「琵琶湖・淀川」（近畿 2 府 4 県）」

### 「研究成果の発表及び情報収集」

水質浄化研究所における調査研究の成果を国内外の学会等で発表することにより、広く成果の共有を図るとともに情報の収集に努める。

### 「シンポジウム・講演会」

水環境保全に係る最新の研究情報等の発信を目的としたシンポジウム、講演会等を開催する。

## ◆ 流域住民の水質保全活動への普及啓発・連携

流域住民自らが身近な水辺に接し、その水環境のあり方を考え、水質に興味をもってもらうインセンティブ創りを目指した現地調査や、流域一体となった水質保全対策を推進するために、水環境改善に関わるステークホルダー間の情報交換や連携の推進に取り組んでいく。

### 「WAQU2 調査隊」

身近な河川等の水質状況などを流域住民自らが調べることで水環境の関心を高めていく。平成 27 年度は当該年度末に予定する機構メインサーバの更新に伴い、現在運用中の「WAKU2 双方向システム」の廃止も視野に入れ、平成 28 年度以降の事業について集約的見直しの検討を行う。

### 「BY スタンプラリー」

市民団体の水環境保全活動への参加や水関連施設の見学・体験を通じて、流域住民の水環境保全活動への参加及び団体間の連帯・協同感の向上を促す。近年は、協賛施設、NPO・市民団体等協賛団体等の減少、参加者の固定化等が見られることから、協賛施設や市民団体等の協賛団体の意見集約を図り、より効果的な事業内容にするための検討を進める。

### 「イベント等への参画」

平成 26 年度に出展したイベントへの参加を継続するとともに、啓発資料・資料等の充実を図りつつ、流域内の行政や事業体などとの連携のもと、出展機会を発掘していく。

### 3. 水質保全活動支援事業（予算額 10,400 千円）

#### ◆ 水質保全研究助成

琵琶湖・淀川流域における水質保全上の先駆的な課題を解決することを目的に、BYQ が設定する研究テーマに沿った研究に対して助成を行う。

平成 27 年度は、特に各府県市の公的研究機関の共同研究等の実施を促す。

#### 「募集研究分野」

- (1) 琵琶湖・淀川流域における微量汚染物質・病原性微生物の動態把握・影響評価・制御技術に関する研究
- (2) 琵琶湖・淀川における流域水環境管理のための水質指標とその監視・解析評価に関する研究
- (3) 琵琶湖・淀川流域における閉鎖性水域の水質保全に関する研究

#### ◆ こども水質保全活動助成

琵琶湖・淀川流域で生活する小学生から高校生の年齢の子どもたちの水質保全活動に助成を行い、次世代の水質保全活動の担い手の育成を進める。

#### 「助成対象活動」

「水環境について知り、理解する活動」、「水質の保全・改善に関する活動」で、次の視点や内容を満たす活動

- (1) 琵琶湖・淀川流域をフィールドとした体験的な学習活動が含まれること
- (2) 上流・下流のつながりなど広域的な視点があること
- (3) 今後の水質保全活動の参考となるような創意工夫があること

#### 「成果報告会の実施」

平成 26 年度の活動実績を踏まえ、活動事例の発表、活動団体間の情報交換・相互交流を柱とした「成果報告会」を開催する。

#### 「こども水質保全活動レポート」

平成 26 年度に引き続き、活動団体の実践活動を取材し、活動レポートとして HP 上や出展の機会等を通じて、広く紹介する。

### 4. その他、特筆事項

#### ◆ 外部団体との連携事業の推進に向けた検討

事業の実施効率の向上や事業シーズの発掘を念頭に、外部団体（各種法人；社団法人、NPO 法人等、学会など）と事業の共同・連携的实施を図る。

#### ◆ HP の刷新に向けた検討

機構の事業広報、水質保全活動の啓発をさらに強化していくため、機構メインサーバの更新の機会に併せ、機構 HP の刷新に向けた検討を行う。